

課題番号 : F-21-TU-0013  
利用形態 : 機器利用  
利用課題名(日本語) : マイクロポンプの開発  
Program Title (English) : Development of micro pump  
利用者名(日本語) : 上野明、紙透真一  
Username (English) : A. Ueno, S. Kamisuki  
所属名(日本語) : 株式会社マイクロジェット  
Affiliation (English) : Microjet, Co. Ltd.  
キーワード/Keyword : リソグラフィ・露光・描画装置、成膜・膜堆積、膜加工・エッチング、接合、流路

### 1. 概要(Summary)

液体吐出を行う小型で流路視認性が良いマイクロポンプを作製するためには、特性を発揮する小型流路と微細な薄膜ピエゾ、そして光透過性の良い部材を用いることが重要である。今回、薄膜ピエゾを有する液体吐出可能なマイクロポンプ作製を目指し、東北大学ナノテク融合技術支援センター(東北大学試作コインランドリ)の設備を利用してピエゾ薄膜の作製と形状寸法が異なるマイクロ流路の作製を検証した。

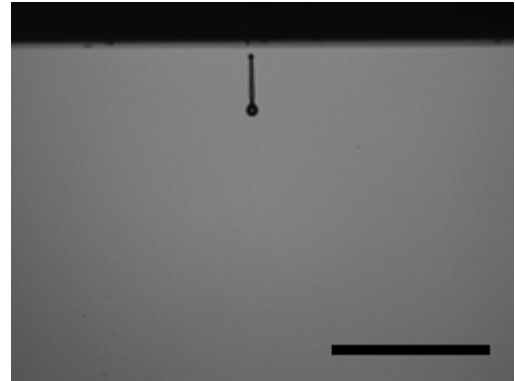


Fig. 1 Jetting state of water from the micropump (scale bar shows 500  $\mu\text{m}$ ).

### 2. 実験(Experimental)

#### 【利用した主な装置】

DeepRIE 装置#1

Suss ウェハ接合装置

両面アライナ露光装置一式(両面アライナ、スピコート、オープン、現像機、乾燥機)

#### 【実験方法】

TMAHを用いたウェットエッチングによって Si ウェハ両面に 50  $\mu\text{m}$  以上の深さを持つ流路を作製した。作製した Si ウェハを、視認性を向上させる目的でガラスと陽極接合した。

### 3. 結果と考察(Results and Discussion)

作製した各マイクロ流路を接着し、マイクロポンプとなるチップを作製した。作製チップを自社設備に組み込み、水や各種溶媒の吐出を実施した。作製したマイクロポンプは動作し、水の吐出を確認できた。Fig. 1 に観察した吐出状態を示す。

今後は長期動作による信頼性確保を目的に加工プロセスを改良する必要がある。

### 4. その他・特記事項(Others)

設備利用や試作開発にあたり、戸津先生や森山先生、そして試作コインランドリのスタッフの方々には多数ご助言いただきました。ここに感謝いたします。

### 5. 論文・学会発表(Publication/Presentation)

なし。

### 6. 関連特許(Patent)

なし。